

# 振興会ミニ通信

平成 27 年 7 月 31 日発行 第 12 号  
発行者 福島県授産事業振興会  
電話 024-563-1228

## 【会津】

このたび、7月1日付で会津若松地域の担当になりました、増井義博です。

**前職**では、県の地域産業6次化サポート事業に支援員として取り組んでおりました。

1次産業（農業）×2次産業（加工）×3次産業（流通）＝6次化といえます。

近年、米の価格低下や農家の高齢化に伴う農業収入の低下など、農業の取り巻く情勢は厳しいものがあります。農業収入では足りない分を農産物に付加価値を付け販売し、収入にプラスになる施策であり、現在、地方創生を含めて農林水産省が本格的に取り組んでいるのが「6次産業」です。先週から、TBSテレビで「ナポレオン村」というドラマが放送されています。公務員が限界集落を再生するストーリーであり、実際に実存したスーパー公務員といわれた高野さんがモデルとなっています。このドラマの中でも、6次化に向けた取り組みが行われております。



**授産事業の支援員として**携わり1ヶ月が立ちました。見るもの、聞くものが初めての事ばかりですが、会津地区の授産施設を訪問し、障がい者やその施設で働く指導員の方々の御苦労に改めて大変さを感じました。施設の就労形態も様々で、いろいろな物が商品として販売されていることに改めて驚きました。会津地域は就農されている施設が多く、農家さんから畑を借りて農産物の栽培・販売をしており、ジャムやドレッシング等に加工して販売している施設もあります。最近“農福連携”という言葉を目にしました。農家には、準備や後片付けなど単純作業など、障がいを持った方が戦力となる仕事がたくさんあります。農家の身体の負担軽減になることなどが多々あり、障がい者が農業の作業委託を受けることにより、工賃の上昇や、やる気に繋がり、それが私生活の充実などにうまく循環していくというのです。農業における諸問題に少しでも貢献でき、地域にとって必要とされる身近な組織となることによって、これからも農福の連携が重要な役割を果たすものになると思います。



訪問先で、こんな**面白い商品**を見つけました。『にんにく卵黄調味料』です。手作り商品ですが、材料が地元産でないのが6次化商品と言えないのが残念です。地元のんにく農家とマッチングを図り、にんにく農家と農福連携+6次化することによって少しでも工賃UP繋がるよう支援していきたいと思っています。施設の方々には、いろいろご指導いただくこともあるかと思いますが、今後共よろしく願いいたします。

（震災復興支援員 会津担当 増井）

## 〈事務局から〉

6月30日付で会津地区担当の震災復興支援員の白井一恵さんが退職され、後任として増井義博が担当する事になりましたので引き続きよろしくお願いいたします。

9月に先進地視察研修、便利屋事業説明会の参加事業所を募集中です。皆様ぜひご参加下さい。

